

北区
こぼれ話
第136回

町名があとからついた？！
—北区赤羽台と赤羽台団地—



赤羽台団地は、東京23区内としては初めて造成された1,000戸を超える大規模団地で(約3,300戸)、1962年(昭和37)に竣工しました。現在は住宅の老朽化などの理由により建て替えが進められ「ニューヴェル赤羽台」へと生まれ変わる一方で、同団地内に建てられたスターハウスなど4棟は初めて国の登録有形文化財に登録されています(正式な登録名称は「旧赤羽台団地41～44号棟」です)。このように北区民以外にも広く知られた赤羽台団地ですが、みなさんは、この団地が北区赤羽台に建っているから赤羽台団地だと思いませんか？いえいえ、ある意味では赤羽台団地が建っているから赤羽台なのです。

そもそも、赤羽台は武蔵野台地の北東部、本郷台のうち石神井川以北の称であり、地形上の呼称としての赤羽台は散見されますが(『岩淵町郷土誌』)、地名としてその称が成立していたかは定かではありません。江戸時代には武蔵国豊島郡赤羽根村に属しますが、むさしのくにとしまぐんあかばねむら官撰地誌『新編武蔵風土記稿』かんせんちし しんぺんむさしふどきこうも小名(※註)は記載されておらず確認することができません。

さて、1958年(昭和33)、戦前から同地に所在していた陸軍被服本廠(戦後は、りくぐんひふくほんしょう米軍東京兵器補給廠第3地区)跡地に日本住宅公団(現・UR都市機構)による巨大団地群の建設が始まりますが、その頃の

住所は主に赤羽2～4丁目で、団地の名称も「赤羽ハイツ(仮)」、「赤羽アパート」、「赤羽団地」などと称していました。一方で、その頃にも「赤羽台の農家は福笑いグリーンハイツの建設で大銀行がお百度参り」などと地域名称としての赤羽台は確認できます(『朝日新聞』1954年(昭和29)1月1日)。その後、公団の要望によって団地群の名称が正式に赤羽台団地となると、地番整理が進む北区でも地域住民は赤羽台の新町名を希望していたといい(『朝日新聞』1961年(昭和36)7月12日)、町名として赤羽台1～2丁目が成立しました。また、1964年(昭和39)の新住居表示により赤羽町2～3、5丁目と袋町1、3丁目の各一部を併せて赤羽台3～4丁目となり、さらに翌65年(昭和40)には1～2丁目にも新住居表示を実施し、現在の北区赤羽台となります。

当然、地形としての赤羽台があつてのことですが、もし公団が赤羽台団地の名称を使用してなかったらまた別の町名になっていたかも知れません。普段、何げなく見ている地名でも調べて見ると結構、面白い発見があるというお話でした。

(地域資料専門員 保垣孝幸)

※小名 — 集落名と考えられています。



200系新幹線連結器加へ



(田端ふれあい橋)

北区の部屋・今月の展示

私たち、部分的に残されました
—北区の歴史を語る部分保存あれこれ—

【期間】令和2年11月27日(金)～12月28日(月)

【場所】「北区の部屋」企画展示コーナー

全部は保存されなかったけれど、部分的に残されたもの。

区内には、そうしたものが散見されます。普段は見向きもされない路傍の石にも、実は、橋としての古い歴史があります。今回の展示では、つい見過ごされがちな、一部分だけ残されたものにスポットをあててみました。



仙台橋の親柱(北本通りの赤羽交差点)

「親子で探検！中央図書館ナイトツアー」開催のお知らせ

誰もいなくなった夜の図書館を大冒険。普段は何気なく利用しているこの場所は、実は…。

親子で探検し、歴史の核心に迫る！

【対象】区内在住の小学生とその保護者

(6年生優先、未就学児不可、保護者同伴必須)

【日程】令和3年1月10日(日)午後4時45分～

【場所】中央図書館(3階ホール集合)

【定員】9組(抽選/小学生1名・保護者1名の2人1組)

【申込先】〒114-0033 北区十条台1-2-5 北区立中央図書館・図書係

TEL: 03-5993-1125 / FAX: 03-5993-1044

※往復はがきの往信用裏面にイベント名、郵便番号、住所、参加者全員の氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、返信用表面に申込む方の住所、氏名を記入の上、12月15日(火)必着。

※FAXでの申込み可。申込書は各図書館に置いてあります。ホームページからダウンロードもできます。



「北区の部屋」活用術 ～聖地巡礼の事前調査～

現在、映画の大ヒットで話題沸騰中の『鬼滅の刃』(集英社)の登場人物・胡蝶しのぶは、「東京府北豊島郡滝野川村」の出身という設定だそうです。このため、「北区滝野川は胡蝶さんの出身地！」と、滝野川八幡神社(滝野川6丁目)に聖地巡礼(熱心なファンが、その作品の舞台となった場所などを聖地と称して訪れること)のために訪れる方もいるそうです。

「東京府北豊島郡滝野川村」がその名称で呼ばれていたのは、明治11年に郡区町村編制法の施行で「北豊島郡」が発足してから、大正2年に町村制施行により「滝野川町」へ変わるまでの約35年間です。途中、明治22年に町村制の施行により、滝野川村は上中里、中里、田端、西ヶ原などの村々と合併し、現在の滝野川地域一帯が「滝野川村」になりました。胡蝶さんは話の設定上、明治の終わり頃に生まれたと推定されるので、出身地「滝野川村」は現在の町名で言う滝野川の場合とは限らない？西ヶ原や田端などの可能性もあるかも！？……などという想像しながら地域を調べると楽しいかもしれません。

滝野川地域には道や建物など、話の舞台である大正時代の面影を残す場所がまだたくさんあります。「胡蝶さんが実在していたら、ここを歩いたかもしれない」と言う場所を地図に落とし込み、オリジナル巡礼地マップを作成してみるのはいかがでしょうか。「北区の部屋」には図書資料の他に昔の地図や写真などいろいろありますので、調べたくなったらぜひご活用ください。(地域資料担当: 村上やよい)



<復刻>東京市15区・近傍34町村
北豊島郡滝野川村全図(明治44年)人文社



北区こぼれ話 第137回

石神井川のシャワーは 地下鉄の湧き水 —王子桜橋を見にいこう—



鉄道のトンネルにとって、湧き水は迷惑な存在です。まず、掘削工事の妨げになります。開通後は、高い湿度により金属などの腐食の原因になりますし、水がたまらないように排水をする設備やその電力も必要です。

そこを逆手に取ったのが、JR東日本の駅の自動販売機や NewDays で売られていた「大清水」というミネラルウォーターです。現在では「From AQUA」という商品名になっています。谷川連峰の美味しい水というイメージで宣伝されていましたが、実は、上越新幹線の大清水トンネル内の湧き水なのです。大清水トンネルは、上毛高原駅と越後湯沢駅の間にあります。当初、トンネル内の湧き水は、線路の雪を解かすために用いられていました。これを飲んだ現場の関係者の間で、美味しいと評判になり、商品化されたとのこと。ちなみに、川端康成の小説『雪国』の冒頭にある「国境の長いトンネル」は、並行に走る上越線の清水トンネルです。

北区内でも、鉄道トンネルの湧き水が利用されています。北区は、湧き水の多い土地柄です。関東ロームが堆積した西側の台地部と、かつて海だった東側の低地部で構成されており、標高差は、20m ほどあります。その斜面のところどころからは、湧き水が出ています。また、戦前までは、低地部において、自噴する井戸が使われていました。北区に、地下鉄南北線を通すときに危惧されたのが、地下水の存在です。「こんなに水が出る土地に地下鉄を通すなんて」という声もありました。しかし「災い転じて福となす」という言葉があります。水が出るなら、それを活用しようという逆転の発想もありえます。現在、地下鉄南北線の湧き水は、石神井川の浄化に役立っているのです。

王子駅南口の近くに王子桜橋という橋があります。サンスクエア（東武ストアなどが入る総合レジャー施設）裏手の石神井川に架けられている橋です。この橋には、シャワーのようなノズルが7つ付けられていて、8:00 から 18:00 の間、1 時間に 1 回、川面に向けて散水がおこなわれています。なんと、この水は、地下鉄南北線のトンネル内の湧き水なのです。迷惑なはずの地下鉄トンネルの湧き水が、石神井川の浄化に役立っているのです。

王子桜橋では、晴れた日の散水時に、虹のような光を見ることができるともいわれています。北区の小さな名所だと思うのですが、散歩などのついでに立ち寄ってみてはいかがでしょうか。【地域資料専門員 黒川徳男】



▶写真 王子桜橋から注がれる南北線の湧き水

北区の部屋 今月の展示

北区、半世紀の移り変わり ～広報ビデオ『北区空中散歩いま・むかし』より～

会期：令和3年1月5日(火)～1月27日(水) / 場所：北区の部屋「企画展示コーナー」

北区では1968年(昭和43)にヘリコプターを飛ばし、区内各所を空から撮影しました。それから24年経った1992年(平成4)、区は再び同じコースで空撮を行い、これを比較して街の移り変わりを紹介する広報ビデオ『北区空中散歩いま・むかし』(現在はDVD(※)になっています)を制作しています。今回の展示では、このビデオに記録されたおよそ半世紀前の映像(1968年(昭和43)の映像)から当時の北区の様子を振り返るとともに、ビデオ制作からさらに30年近くが経過した現在の北区とを比較し、その移り変わりを紹介します。

※復刻版DVDシリーズ(全7地区編)は中央図書館「北区の部屋」にあります。貸出可。



公開歴史講座



「北区の軍用鉄道 そのナゾにせまる」

かつて、堀船・十条・滝野川・板橋・桐ヶ丘などの軍事施設の間を列車が行き来していました。この講演では、陸軍の資料をもとに、軍用鉄道のナゾにせまります。

歴史ファンの皆様お待たせいたしました！今年度初の公開歴史講座は、新型コロナウイルス感染症に留意しつつ開催します。そのため、例年より募集人数を限らせていただきます。また感染拡大防止のため、受付時の検温・手指消毒を行うことについてご協力願います。寒くなることが予想されますので暖かくしてご参加ください。



- ・講 師 中央図書館 地域資料専門員 くろかわのりお 黒川徳男
- ・日 時 2月7日(日) 14時～16時
- ・場 所 中央図書館 3階ホール
- ・定 員 20名(応募多数の場合抽選)
- ・対 象 中学生以上の方
- ・申込締切 1月20日(水) 必着
- ・申込方法 往復はがきの往信用裏面に講座名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を、返信用表面には申込む方の住所、氏名を記入して下記までお申込みください。



※視覚障害・聴覚障害のある方は電話・ファクスにてお申込みいただけます。

※手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。

※会場はヒアリンググループ補聴援助システムが設置されています。

- ・申 込 先 〒114-0033 東京都北区十条台1-2-5 北区立中央図書館・図書係
TEL : 03-5993-1125 / FAX : 03-5993-1044

「住めば、北区東京。」最新版DVDのご案内です。

「匠の技！北区伝統工芸保存会」 (手話あり・手話なしの2種類あり)

制作：北区政策経営部シティープロモーション担当課

所蔵：中央図書館「北区の部屋」

書誌番号

- ・3-0003133280(手話あり)
- ・3-0003133279(手話なし)



－お詫びと訂正－

「北区の部屋だより」第136号(12月号)裏面【「北区の部屋」活用術～聖地巡礼の事前調査～】に誤りがありました。お詫びし訂正いたします。

〈誤〉滝野川八幡神社(滝野川 6 丁目)



〈正〉滝野川八幡神社(滝野川 5 丁目)

北区 こぼれ話 第138回

オリンピックをきっかけに きたもとどおり 北本通りの話

北区を通る国道122号線。豊島区との区境に位置する西巢鴨の交差点から栃木県日光市を結んでいます。国道122号線といってもあまり馴染みはないかも知れませんが北本通りといったらどうでしょうか。北本通りは、国道122号線のうち王子駅前から新荒川大橋の間に付けられた通称で、1964年（昭和39）に行われたオリンピック東京大会の際に付けられました。ちなみに、同じ国道122号線の西巢鴨交差点から王子駅前までは明治通りと呼ばれています*1。これも東京オリンピックで付けられた名称です。

1960年（昭和35）12月 東京都はオリンピックで飛躍的に増加する外国人観光客に対して道をわかりやすく案内するため、そして、都民の交通の利便性を高めるために都内主要道路に通称名を付けることを決定し、翌61年（昭和36）4月に東京都通称道路名設定審議会を設置しました。この審議会の答申に基づき、1962年（昭和37）4月に44路線が、そして翌63年（昭和38）に25路線が公告され、内堀通りや外堀通りをはじめ、通称として呼ばれる69の道路の名前が決定したのです。

ちなみに、北区域を通る明治通り、中仙道、本郷通り、環七通りといった名称も全てこの時に付けられています*2。

さて、北本通りは

「北本通り（きたくほんどおり）」とすると語呂が悪いのでこの名称にしたともいわれていますが、この名前で一番の迷惑をこうむったのは1983年（昭和58）から5期20年にわたり北区長をつとめた北本正雄氏きたもと まさおかも知れません。氏は回想録の中で「私がよその区長なんかと会って冷やかされるのはね、自分で『きたもとどおり』なんて付けてって。」「俺が付けたんじゃない。鈴木知事*3にも言われちゃった。図々しいにもほどがあるって。」と爆笑エピソードを語っています。（北本正雄氏『北区を想う』北区立中央図書館、2013年、155～6頁）

いうまでもなくこの道路は「きたもとどおり」であって「きたもとどおり」ではありません。ちなみに北本通りの名称がつけられたときの区長は小林正千代氏こばやし まさちよ（1958年（昭和33）～1983年（昭和58））。北本氏は北区役所の係長で、自分の名前を道路に付けるほどの権限はなかったと思います（笑）。（地域資料専門員 保垣孝幸）

*1 明治通りは、港区南麻布2丁目から江東区夢の島を結ぶ道路の通称で、都道416号、都道305号、国道122号、都道307号、都道306号などを通ります。

*2 通称で呼ばれる北区域の道としては、北区岩淵町と大田区羽田空港1丁目を結ぶ環八通りもありますが、環八通りの名称は1984年（昭和59）に付けられました。

*3 東京都知事鈴木俊一氏すずき しゅんいち（在職期間1979年（昭和54）～1995年（平成7））

板橋駅の中庭 昭和 56 年 松浦健介氏提供



北区の部屋・今月の展示



板橋駅のあゆみ

— 祝 板橋駅の所在地が北区に！ —

【期間】1月29日(金)～2月24日(水)

【場所】「北区の部屋」企画展示コーナー

令和2年(2020)板橋駅の所在地が、北区滝野川七丁目に変更されました。駅の所在地は、駅長室の位置で決まりますが、板橋駅改良工事および東口ビルの建設により、それまでは板橋区板橋一丁目にあった駅長室がなんと北区側に移ったためです。浮間舟渡・北赤羽・赤羽・十条・東十条・王子・上中里・田端・尾久について、北区で10番目のJR東日本の駅となりました。そこで、今回の展示では、古い写真などを用いながら、板橋駅とその周辺の歴史を振り返ります。



公開歴史講座『岩淵・川口宿の助郷』のご案内

街道の宿駅が果たすべきもっとも重要な役割は、公用の貨客輸送でした。これを支えた江戸時代の助郷制度について専門家がわかりやすく紹介します。

【対象】中学生以上の方

【日程】3月13日(土)午後2時～4時

【場所】中央図書館(3階ホール集合)

【講師】保垣孝幸 地域資料専門員

【定員】20名(抽選)

【申込先】〒114-0033 北区十条台1-2-5

北区立中央図書館・図書係 TEL: 03-5993-1125 / FAX: 03-5993-1044

※往復はがきの往信用裏面にイベント名、郵便番号、住所、参加者全員の氏名(ふりがな)、年齢、

電話番号、返信用表面に申込む方の住所、氏名を記入の上下記まで。2月23日(火)必着。

※視覚・聴覚障害のある方は電話・ファクス申し込み可、手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。また、会場にはヒアリングループ(補聴援助システム)が設置されています。

講師：保垣孝幸 地域資料専門員



NHK 大河ドラマ 放映 & 「東京人」増刊号 販売開始!



いよいよ、渋沢栄一を主人公としたNHK大河ドラマ「青天を衝け」が今月14日より放映開始、同月20日には飛鳥山に23区初となる大河ドラマ館が開館します。北区ではそれを記念して、雑誌『東京人』(都市出版株式会社発行)とコラボレーションし、2021年2月増刊号「王子飛鳥山を愛した渋沢栄一」を刊行しました。

この本は、北区と渋沢栄一をテーマに、様々なジャンルの著名人や識者による記事で構成されています。もちろん、大河の主役を務める吉沢亮さんの独占インタビューもあります。また、大河ドラマ館を見た後に立ち寄れる北区の老舗銘店やお土産の紹介や、味わい深い酒場めぐりなど北区見どころスポットも紹介されてい

ますので、雑誌片手に王子や飛鳥山を散策してみたいかがでしょうか。

北区立図書館では全館に閲覧、貸出用を配架しました。また、中央図書館では販売も行っております。ぜひ一度お手にとってご覧ください。

○ 北区役所区政資料室・北区飛鳥山博物館・全国主要書店でもご購入いただけます。【装丁:B5判・132頁/価格:税込740円】

※漢詩:「青空をつきさす勢いで肘をまくって登り、白雲をつきぬける気力で手に唾して進む」の意。



大河のタイトルは、
若い時に詠んだ漢詩※
「勢衝青天攘臂躋
氣穿白雲唾手征」
……からとりました。

北区 こぼれ話 第139回

「日露戦争で機関銃がなかった」伝説と 十条台への銃包製造所設置



かつて「日露戦争で日本軍は機関銃を持っていなかった」と広く語られていました。これは事実ではなく、のちの時代の精神主義的軍隊教育の場で語られた「伝説」にすぎません。そして、この話は戦後も歴史の授業などで語り継がれています。しかし、実際には、日露戦争期の日本軍は、ホチキス機関銃（フランスのホチキス社製機関銃）をライセンス生産した「保式機関銃」などを装備していました。なお、文房具のホチキスの語源となったのは、アメリカの文具メーカーのホチキス社であり、フランスの会社とは別です。ところが、両社とも創業者の姓がホチキスだったため、文具のホチキスのもとになったのは、ホチキス機関銃だという別の伝説が生まれます。

日露戦争期の兵器生産や供給については「明治三十七八年戦役 陸軍省軍務局砲兵課業務詳報」※ という公文書が残されています。そこには、機関銃などについての記述がしばしば出てきます。日露戦争で問題となったのは、弾丸の供給でした。弾丸不足が「機関銃がなかった」伝説を生んだのかもしれませんが。この文書の1895年(明治38)1月24日の記述には「〔銃包〕製造所一ヶ月の製出高、概略千二百万発なりと雖とも、目下満州軍の総銃数三十万以上に達し、且機関銃の数漸次増加せしを以て、前記製造力にては不足を訴ふる日あるへきを感じ」と、近い将来の弾丸不足を予想しています。

当時、今の東京ドームシティの場所に東京

砲兵工廠があり、その中の銃包製造所で弾丸が製造されていました。しかし、増産の場としては、手ぜまだったのでしょうか。「製造所拡張案起れり、然れども砲兵工廠構内に於ける現在の銃包製造所は狭隘にして到底拡張の余地なきを以て、東京附近に於て土地を選定し此の銃包製造所を移し且之を拡張するに決し」とあります。そこで、拡張先の候補地として、白金・目黒・千住を調査したものの「一利一害ありて何れも充分ならざる」ということでした。そして、最終的に「比較的利便の多き王子付近」に落ち着きました。つまり、拡張先として、十条台一丁目（当時、下十条）が選ばれたのです。

ただし、日露両国は、その年の9月1日に休戦議定書に調印しました。自衛隊十条駐屯地の石碑に依れば、砲兵工廠銃包製造所の竣功がその年の11月、移転が12月でしたので、ここで製造された弾丸が日露戦争に使われることはありませんでした。

(地域資料専門員 黒川徳男)



◆◆自衛隊十条駐屯地の石碑◆◆

※「明治三十七八年戦役 陸軍省軍務局砲兵課業務詳報」(防衛省防衛研究所所蔵)は、国立公文書館アジア歴史資料センターホームページにて閲覧できます(レファレンスコード：C06040172200～C06040180400)。

◆◆◆北区の部屋・今月の展示◆◆◆

国立国会図書館所蔵「旧幕府引継書類」

【期間】2月26日(金)～3月30日(火)

【場所】「北区の部屋」企画展示コーナー

かつて江戸町奉行所で作成、保存されていた文書類は「旧幕府引継書類」と呼ばれ、国立国会図書館に所蔵されています。今回の展示では『北区史』で利用された記録を中心に国立国会図書館が所蔵する「旧幕府引継書類」について紹介します。



◀ 滝野川正受院配札一件



▲ 武州豊島郡王子村絵図

◆◆◆公開歴史講座、開催しました。◆◆◆

去る2月7日(日)、中央図書館「北区の部屋」の黒川徳男地域資料専門員を講師に、「北区の軍用鉄道 そのナゾにせまる」と題した公開歴史講座を開催しました。

北区には昔から軍の工場が多く、その工場と工場の間や、工場の敷地内で荷物を運ぶ手段として鉄道が走っていたそうです。鉄道といっても、現在あるような電車や蒸気機関車が走っていたわけではありません。「軽便鉄道」といって、トロツコのような列車が工場を往来していたようです。講師曰く、以前から北区の軍用鉄道を調べに来る方が一定数いたため、一度きちんとまとめたものを作ってみようという今回のテーマにしたとのことでした。

鉄道の古地図・古写真と現在の見比べや、鉄道を敷く際の陸軍と逓信省の文書のやり取りなどの解説に、参加者からも「普通、ここまで深く追求しない」、「一般の講座では聞けないことを聞いた」との感心の声も多く、喜んでいただけたようでした。



講師：黒川徳男
地域資料専門員

◆◆◆大河ドラマ関連本のご案内◆◆◆

先月より、実業家・渋沢栄一翁を主人公としたNHK大河ドラマ「青天を衝け」が放送を開始しました。皆さまはご覧になりましたか？

北区立図書館では、渋沢翁の人物像や偉業などを様々な角度からご紹介できるよう、昨年より「渋沢栄一関連書籍コーナー」を全館に設置し、関連書籍を積極的に集めています。大河ドラマに関する書籍も多数取り揃えました。キャスト紹介や撮影時の裏話、ゆかりの地案内などいろいろ特集されており、大変読み応えのある本ばかりです。下記以外も、3月初旬より続々と配架の予定です。ぜひご覧ください。



青天を衝け 一 (1)

- ▶大森 美香・豊田 美加 (著)
- ▶NHK 出版
- ▶書誌番号：3-0003167002

完全小説版、渋沢栄一の青春時代を描く第1巻。「虐げられる身分のままでは終われない。俺は、武士になる！」(全4巻)



NHK大河ドラマスペシャル るるぶ 青天を衝け(JTBのムック)

- ▶ジェイティビィパブリッシング
- ▶書誌番号：3-0003169246

大河ドラマ『青天を衝け』の番組情報と、主人公・渋沢栄一ゆかりの地&観光情報をるるぶが徹底ガイド！

青天を衝け 前編 (NHK大河ドラマ・ガイド)

- ▶大森 美香(著) ▶NHK 出版
- ▶書誌番号：3-0003168934

大河ドラマを、とことん楽しむためのガイドブック第一弾。キャストの紹介、インタビュー、ストーリー解説と充実の内容に。



大河ドラマ 青天を衝け 渋沢栄一のすべて (TJMBOOK)

- ▶宝島社
- ▶書誌番号：3-0003168932

「青天を衝け」の副読本としても読める、伝記ムック。渋沢が関わった500超もの企業・団体のコンプリートリストも掲載。





北区の部屋だより 2021年4月

第140号



刊行物登録番号 2-2-107

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0038 北区十条台1-2-5 TEL.03-5993-1125 令和3年4月発行

北区
こぼれ話
第140回

北区の木は桜 では北区の花は?!

みなさんは北区の木をご存知でしょうか。知らなくても想像で答えて正解される方も多いかも知れません。北区といえば飛鳥山、飛鳥山といえば桜、そう、答えは「桜」です。花びらは北区コミュニケーションマークのモチーフにもなっており、区内では四季を問わず何かと眼にする機会の多い木ですが、やはり醍醐味はなんといっても春。区内各所に植えられており、公園で咲き誇るほか道に沿った桜並木など、随所で見事な景観を描き出しています。

では、北区の花を知っていますか? 「えっ?!桜じゃないの?」と思うかも知れませんが、桜は北区の「木」であって「花」ではありません。ちゃんと「北区の花」というものが存在します。正解はツツジ。1972年(昭和47)12月25日に緑化推進運動の一環として「北区の木」と同時に決定しました。

地域とツツジの関係を歴史的にみると北区というよりお隣の豊島区、特に染井地域そめいと深い関係があります。日向国ひゅうがのくに(現在の宮崎県)霧島山きりしまやまのツツジが染井の植木屋伊藤伊兵衛にもたらされ、伊兵衛はその栽培に成功、花の見事さと栽培の容易さをもって江戸を中心に一大ブームを巻き起こしました。そして「飛鳥山の桜に染井のつつじ色を争い」といわれるように、ともに知られた花の名所となっていたのです(『豊島区史通史編1』1981年、P503~4)。

では、北区とツツジは全く縁がないかというとそうでもありません。染井にほど近い西

ケ原村にも多くの植木屋がいたことがわかっています。当然、西ケ原の植木屋でもツツジを扱っていたことでしょう。また、享保18年(1733)2月、八代将軍徳川吉宗が飛鳥山に桜の苗木を植樹してから十年以上が経過し、観桜の条件が整ってくると、飛鳥山にあった将軍御立場おたちば たかがり(鷹狩の際に将軍が立って鷹はなを放つ築山)のまわりに赤松5本、ツツジ7株が植えられました(『御場御用留』)。赤松については「日除けのため」とその理由がはっきり記されていますが、ツツジについては定かではなく、桜以外の花を植えてアクセントにするつもりだったのかも知れません。ともあれ、将軍御成先整備の一環として、飛鳥山には桜とともにツツジも植えられていたことがわかります。

現在、ツツジは飛鳥山公園をはじめ各地の公園のほか、学校や区内の各施設、街路の植栽としても植えられており、それこそ様々な場所で見ることができます。どうしても桜ばかりが注目されてしまう季節ですが、今年は“密”を避け、ツツジを探して散策してみるのもいかがでしょうか?

(地域資料専門員 保垣孝幸)



子どものころ、
ツツジの花の蜜を
あややって飲んだ
わあ、懐かしいわあ...

▶北区の部屋・今月の展示「陸軍の軽便鉄道」

●期間 4月1日(木)～4月21日(水)

●場所 「北区の部屋」企画展示コーナー



去る2月7日(日)、中央図書館で「北区の軍用鉄道 そのナゾにせまる」と題した公開歴史講座が開催されました。かつて、北区には、陸軍の施設が多く、それらの間には、陸軍専用の鉄道が走っていました。鉄道と言っても、JRの電車や都電のようなものではなく、線路の幅がとても狭い、トロツコのような軽便鉄道です。

そこで、今回の展示では、公開歴史講座の内容に加えて、その後に、板橋区教育委員会の方からご提供いただいた資料などをもとに、陸軍の軽便鉄道について分かりやすく解説したいと考えます。公開歴史講座に参加された方も、そうでない方もどうぞご覧ください。



陸軍の凸型電気機関車『造兵彙報特別号 運搬設備』
(陸軍造兵廠、昭和7年)国立国会図書館所蔵

▶ 公開歴史講座&ナイトツアー開催しました。

～中央図書館で3月に開催した、二つの地域関連イベントの様態をご紹介します。～

①公開歴史講座「岩淵・川口宿の助郷」

・3月13日(土)14:00～16:00

・講師:「北区の部屋」保垣孝幸地域資料専門員



保垣孝幸 講師

江戸時代、街道沿いに置かれた宿場(宿駅)には、公用の貨客輸送という重要な役割があり、各宿駅には輸送用の人馬を常備していました。岩淵・川口宿は将軍の日光東照宮参拝の交通路として整備された「日光御成道」にあり、一つの宿扱いで宿駅業務を行っていたそうです。

通行量の増大に伴い人馬が不足するようになると、「助郷」と言って幕府に指定された近隣の村々から人馬の補充を行うようになりました。しかし、働き手と馬を徴収される村の負担は大きく、宿駅と助郷村の利害対立は宿駅制度が廃止になるまででなくならなかった……といった内容を、講師は当時の時代背景を交えつつ解説していました。なお、今回使用した資料は、希望者にお配りしています。ご興味のある方は、「北区の部屋」内カウンターへお申し出ください。

今回の講座は地元にあった宿場という身近な題材だったせいか、休憩中や講座終了後も講師への質問が途切れず、関心の高さが伺えました。

②「親子で探検! 中央図書館ナイトツアー」

・3月14日(日)16:45～18:45

・企画・運営:北区図書館活動区民の会

ナイトツアーは図書館の地域関連イベント唯一の小学生向けワークショップです。例年、1月の成人式前後に行っているのですが、今年は新型コロナウイルスの影響による非常事態宣言発令により、1月開催は見合わせ、3月に振替実施となりました。

ツアーでは参加者の親子を3班に分け、中央図書館の特色などを調査するため、館内・外をくまなく歩きまわりました。真っ暗な館内を懐中電灯の光だけを頼りに歩き、赤レンガ建物の構造を調べ、レンガの積み方を習い、外壁のレンガの刻印を探し、閉架書庫の大型書架を動かしてみる……。昼間の図書館では体験できないミッションを多く用意したため、お子さんだけでなく親御さんたちからも歓声があがるなど、大盛り上がりなツアーとなりました。

アンケートでも「今年度は何もできなかったもので良い思い出ができました」、「赤レンガ積み楽しかった」、「今度は昼間に来て刻印探しをしたい」など、ツアーを楽しんだ様子が伺えました。



ラチス柱の構造の説明を聞く参加者たち

▶古文書入門講座開催のお知らせ「北区の古文書を読んでみよう!」

～北区の古文書を題材に、くずし字の調べ方など初歩の解説を演習形式で行います。～

●対象 区内在住・在勤・在学、18歳以上の方 / ●定員 20名(抽選/初めての方優先)

●日時 5月7日～6月11日(毎週金曜日・全6回)・各回午後2時～4時

●場所 中央図書館3階ホール / ●講師 保垣孝幸地域資料専門員

●申込方法 及び 申込先・問合せ先

往復はがきの往信面に講座名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を、返信面に、申し込む方の住所・氏名を記入して下記まで。4月21日(水)(必着)。

〒114-0033 北区十条台1-2-5 北区立中央図書館図書係 TEL:03-5993-1125

